

Istanbul Weekly vol.4-no.34

イスタンブール ウィークリー

発行：在イスタンブール日本国総領事館 発行日：2015年9月4日（金）

— 今週のポイント —

- 政治：**ダーヴトオール首相、暫定内閣名簿を発表。
国家安全保障会議が開催。
- 経済：**トルコ中央銀行、支払い準備率変更。
7月の貿易赤字、拡大。
- 治安：**ISILがトルコの有志連合参加を非難する動画を公開。
イラクでトルコ人18名が誘拐される。
- 軍事：**トルコ戦闘機が多国籍軍とともにISILを攻撃。
ISILとの戦闘でトルコ兵1名死亡、1名拉致。
- 社会：**トルコ人が海外旅行で行きたい国の1位はアメリカ、日本は7位。
EUの受け入れシリア難民数、トルコを大きく下回る。

政治

【政治】

●ダーヴトオール首相、暫定内閣名簿を発表

8月28日、ダーヴトオール首相は、暫定内閣名簿を発表。全26名の閣僚の内、AKP12名、HDP2名、MHP1名、無所属11名の内訳となった。（閣僚名簿は末尾参照）（8月29日付H紙1面）

●8月30日、戦勝記念日記念式典が実施

トルコ共和国の独立戦争での勝利から93周年目を迎えた8月30日、各地で記念式典が実施された。一方で、首相府及びイスタンブール県庁は、最近のテロ事件の発生を受けて、歌舞音曲系のイベントを中止する決定を下した。（8月31日付当地H紙1面）

●国家安全保障会議が開催

2日、エルドアン大統領主宰による国家安全保障会議が開催された。終了後の書面発表によれば、同会議では、11月1日総選挙に向けた治安対策をはじめ、最近のテロ情勢の評価とテロ対策の状況、ギュレン系との闘争、対シリア政策などについて協議が行われた。（9月3日付S紙21面）

経済

【マクロ経済】

●トルコ中央銀行、支払準備率変更

8月29日、中央銀行は、銀行の長期借入れを推奨するために支払準備率を変更した。3年未満の短期借入に対する支払準備率を、1年未満については20%から25%、1年以上2年未満については14%から20%に、2年以上3年未満については8%から15%にそれぞれ引き上げるとともに、3年以上5年未満については7%で据え置き、5年以上については6%から5%に引き下げた。（8月31日付HD紙10面、

トルコ中央銀行ホームページ）

●7月の貿易赤字、拡大

トルコ統計庁が8月31日に発表したデータによると、7月の貿易赤字は前年同月比6.5%拡大し70億ドルであった。車と金の輸入増が主な要因。輸出及び輸入はそれぞれ同16.2%減の112億ドル、同8.7%減の182億ドル。1~7月期の貿易赤字は、前年同期比13%減少し403億ドルであった。（9月1日付HD紙10面）

●8月の輸出、4.9%減少

トルコ輸出業協会によると、トルコの8月の輸出は前年同月比4.9%減少し104億8000万ドルであった。輸出減は主に地政学的リスクによる。1~8月期では同8.9%減の951億4000万ドル。8月の輸出は部門別には既製服が輸出額の14%を占めトップ、次いで自動車（同13%）であった。ユーロの対ドル下落により輸出コストは89億ドル増加した。（9月2日付HD紙10面）

【経済政策】

●政府、消費者ローンの条件緩和へ

トルコ政府は、再選挙前に落ち込んだ国内需要を回復させるため、消費者ローンの条件を緩和する予定。支払期間は、消費者ローンについては36ヶ月から48ヶ月に、自動車ローンは48ヶ月から60ヶ月に拡大する。情報筋によれば、この緩和措置により経済成長が回復する見込みがあるものの、この種の緩和はババジャン副首相の下で実施されてきた措置と矛盾するものであり、経常赤字を拡大させる可能性がある。（9月2日付HD紙10面）

【国際会議】

●G20財務大臣・中央銀行総裁会議、アンカラで開催

4~5日、アンカラでG20財務大臣・中央銀行総裁会議が

開催される。中国経済の懸念やギリシャの財政危機等へに高い関心が寄せられる中、最近の経済の見通しと解決について議論される予定。

11月には、アンタルヤでG20首脳会合が開催され、世界中から約1万3000人の経済リーダーが出席予定。ロイターは、世界経済の状況が悪化する中で、トルコが決定的な役割を果たすことは考えにくく、特に先週、与党が早期総選挙に向けた選挙管理内閣を発足させ、国際的にも評価が高いババジャン前副首相が閣僚から外れたことで、経済情勢はさらに悪化したと報じた。(9月3日付HD紙10面)

【トルコ経済に関する評価等】

●トルコの早期総選挙の影響＝ムーディーズ

ムーディーズは、11月1日に予定されているトルコの早期総選挙が政策決定を遅らせ、経済面での逆風が強まると予測。同社のレポートによると、11月の総選挙の結果、少数内閣または連立政権といった政治的に不安定な状況になることが予想され、強力な政権が成立しない限り、投資家心理を活気づけ、維持させることはできず、トルコの信用度に影響を与えることとなる。(8月29日付HD紙10面)

●フィッチ、トルコの政治的不透明感に対して警告

フィッチ・レーティングスは、8月28日、トルコの早期総選挙は、政治的不透明感を解消するのではなく、引き延ばす結果となる可能性があり、このことがトルコの内政・外交における困難を増加させるリスクがあると指摘。また、トルコにおける政治的リスクは、信用格付けに対する圧力となることも指摘した。(9月1日付HD紙10面)

治安

●イギリス人ジャーナリスト2名がテロ容疑で拘束、欧米メディアは強く反発

8月27日、ディヤルバクル県で米国VICE NEWSの取材陣で、ジャーナリスト、ジェイク・ハンラハン氏ら英国人2名がトルコ人通訳等と共に、当局にISILを援助した容疑で拘束された。これを受けて欧米のメディア団体、人権団体はトルコ政府に対して即時釈放するよう抗議しているが、トルコ政府は「2名のジャーナリストの拘束にトルコ政府は一切関わっておらず、同事件は刑事問題である。」とコメント。(8月28日付HT紙14面)



(VICE NEWS より)

●PKK と治安部隊の衝突で市民3人死亡

HDP 国会議員によると、27日ハッキヤリ県ユクセクオヴァにおいて、PKK 戦闘員が軍の基地を攻撃した後、ジズレの街中にバリケードを設置して治安部隊の侵入を防ぐ形で衝突が発生した際、流れ弾で市民3人が死亡した。(8月28日付HD紙1面)

●情報部報告書“PKKはトルコで自治区設立を目指している”

警察の情報部の報告書は、「南東部12県でPKKが地域住民を抑圧し、高い脅威が認められる。PKKの青年組織YDG-H

は郊外の武装勢力とともに、弾薬や武器を南東部の、ユクセクオヴァ、ジズレ、シロピ、チュクルジャ、ヌサイビン、シェムディンリ、エルフ、ヴァルト、ブラヌク、リジェの町に展開している」と伝えている。またH紙が入手した情報によると、安全地帯や自治区を設立するため、これらの組織は独自のチェックポイントを設けている。

さらに、同報告書は「PKKが、治安部隊の侵入を防ぐために市民を人間の盾に使っている。夜間外出禁止が『地方政府』から布告されている」「シルヴァン、リジェ、ヴァルト、ユクセクオヴァでは、PKK 戦闘員が夜の通りを闊歩している」等と伝えている。(8月28日付HD紙3面)

●ISILがトルコの米国への協力を非難する動画を公開

8月30日、ISIL 関連とされるホームページ上で、以前にもISILプロパガンタ動画に出演したトルコ語を話す3人のISILメンバーが登場し、「エルドアンは、10年前イラク戦争でも米国に協力し、昨年シリアのコバニでの戦いでも米国に協力し、米国が支援する自由シリア軍を支援している。今またインジルリック基地を米国に使用させるなど、エルドアンは米国とイスラエルの犬になっている。今行っていることは、自分に返ってくる。イスラムの土地から追放する」等と述べた。(8月31日付C紙7面)

●ISIL参加企図者を拘束

8月30日、キリス県で、ISILに参加するためにシリア入りを企図した17名が当局により拘束された。(8月31日付C紙7面)

●PKKの攻撃で列車が脱線

8月30日、南東部エラズー県でPKKが線路に仕掛けた爆弾が爆発し、通過中の列車32車両のうち4車両が脱線。3名が負傷した。(31日付C紙7面)



(画像は同紙インターネット版から)

●トルコ南東部で、PKKの攻撃により警察官4名及び少年1名が死亡

8月30日、ディヤルバクル県シルヴァンのダム建設道路近くに置かれた遠隔爆弾が爆発し、13歳の少年が死亡した。少年は食料雑貨を買いに行くために現場付近を歩いていた。また、同日正午頃、同じくディヤルバクル県カヤブナル地区で、PKKが交通検問ポイントを銃撃し、交通警察官3名が死亡する事件があった。更に、同日午後、シュルナック県シロピで、PKKが道路に仕掛けた爆弾により警官1名が死亡、4名が負傷する事件が発生した。(9月1日付HD紙3面)

●ドイツにおいてトルコ人PKKメンバーが禁錮3年

ドイツのハンブルグ高裁は、PKKメンバーである46歳のトルコ人 Mehmet・D に対して禁錮3年の刑を言い渡した。同裁判所は、PKKは殺人を目的としたテロ組織であると判決文で述べた。トルコ、EU及び米国ではPKKはテロ組織に指定され、自国領土内での活動が禁止されている。また、連邦検察局によれば、他にトルコ人 Bedrettin・K もPKKメンバーであることを理由に逮捕している。(9月1日付HD紙3面)

●バンコクの爆弾テロは「トルコ人ではない」

駐タイ・トルコ大使館によれば、バンコクで発生した爆弾

テロに関連してタイ警察が捕らえた外国人はトルコ人ではないとのことである。この身元不詳の外国人は、8月29日朝にバンコク郊外のアパートで逮捕され、爆弾製造装置やトルコのパスポートを含む複数の偽造パスポートを所持していた。しかし、同大使館は同人がトルコ人であることを否定し、また、タイの国防大臣も「現時点ではトルコ人か否かについて述べるべきではなく、調査を続けなければならない。」と述べるにとどめた。(9月1日付HD紙8面)

●前 AKP 青年部長が殺害される

ディヤルバクル県で、AKPの前県青年部長であったユヌス・コジャ氏が、同人の経営する薬局の前で、何者かに銃撃され搬送先の病院で死亡した。警察は同事件がテロの可能性も含め事件を捜査中。(9月1日付HD紙3面)



(画像は同紙インターネット版から)

●テロ容疑者情報に懸賞金支払いへ

内務省は、テロ実行犯の拘束につながるなどの有力な情報を当局に提供した者に対して、報奨金を支払うことを決定した。報奨金は、5000TLから20万TLであるが、PKKの幹部拘束につながる情報については400万TLが支払われるという。(9月1日付HT紙18面)

●各県で PKK の攻撃によって医師、警察官等が死亡

8月31日夜、ディヤルバクル県において、PKKが設置した身分確認のための検問所を車両で突破しようとした医師がPKKに銃で撃たれ死亡した。

また、1日午前8時頃、ウードゥル県カラコユンル地区で軍の監視ポストの近くをパトロールをしていた警察官に対して、子供が「不審者が2名いる」と訴えたため、警察官が現場に向かったところ、待ち伏せしていたPKK戦闘員に頭部と胸を撃たれ、病院に運ばれたが死亡した。

更に1日夜、バトマン県では、私服警官を乗せた車両がPKKに銃撃され、警察官2名が負傷した。(9月2日付HD紙2面)

●TV局等がテロ容疑で一斉捜索

1日、トルコ警察は、コザ・イップェクグループに属するカナル・テュルクとブギョンの2放送局を含む23の会社に対して、「ギョレン系テロ組織に対する金銭的支援とプロパガンタを実施した」との容疑で一斉捜索を実施し、6人を拘束した。これに対して、メディア団体やMHP、CHPなどは同捜索を表現の自由に対する弾圧として厳しく非難している。

(9月2日付HD紙4面)



(画像は同紙インターネット版から)

●ISIL 参加企図者 12 名拘束

2日、キリス県において、ドイツ人、ヨルダン人、サウジアラビア人等から成る ISIL 参加を企図する12名が拘束された。うち1名は女性、2名は子供であるという。(9月3日付HT紙14面)

●警察、イスティクル通りでの反戦デモを強制鎮圧

9月1日、警察は、イスタンブール市内イスティクル通りで行われた、約500人が参加した反戦デモを、催涙弾、ゴム弾、放水車を使用して強制解散させた。デモ隊が、参加者が手をつないで「人間の鎖」をアピールし、エルドアン大統領を批判するスローガンを叫んでいたところを警察が介入し、14人が拘束された。(9月3日付HD紙2面)



(画像は同紙インターネット版から)

●バクダットでトルコ人作業員等 18 名が誘拐される

2日、イラクの首都バクダットでサッカー場建設に従事していた作業員等18名が、覆面をした武装勢力に拉致された。犯人グループは、犯行現場でトルコ人のみを選んで連れ去った。(9月3日付HD紙1面)



建設中のサッカー場

(画像はHD紙インターネット版から)

●PKK 掃討作戦中に兵士 1 名死亡。トルコ軍は空爆を実施

1日午前7時頃、ハッカリ県シムディンリにおいて、幹線道路の安全確保のためのPKK掃討作戦中に兵士1名が戦闘で死亡。2機のF16戦闘機が急派され空爆を実施し、20名のPKK戦闘員が死亡した。

また、1日バトマン県でPKKによる警察車両襲撃で重傷を負っていた警察官が入院先の病院で死亡した。

(9月3日付HD紙4面)

●イスタンブールで PKK 一斉捜索で 3 人拘束

2日早朝、イスタンブール市内エセンユルト、バージュラル、キュチュクチェクメジェにおいて、警察によるPKK一斉取締りが行われ、PKKメンバー3名が拘束され、自動式散弾銃、書類、パソコン等が押収された。キュチュクチェクメジェでは、インターネット・カフェが捜索対象となり、カフェ内の監視カメラやパソコン等が押収された。(9月3日付HD紙4面)

●2万人の外国人戦闘員をブラックリスト入り

2日トルコ外務省スポークスマンは、シリアでの戦闘に参加する恐れのある約2万人の外国人戦闘員を入国不許可のブラックリストに掲載した旨を発表。また、「2100人の外国人戦闘員を出身国に強制送還し、3700名を空港で不審者として取り調べを実施し、そのうち1450名をシリアでの戦闘に参加する恐れがあるとして送還した。」と述べた。(9月3日付HD紙4面)

軍事

●ISILが「フリーゾーン」予定地に侵攻

シリア人権監視団によると、27日 ISILはシリアのアレッポ近郊へ侵攻し、戦略的要所である5か所の村を占拠した模様。これらの村は、トルコが設置を望んでいるとされるシリア領内の98kmの長さ、40キロの奥行きを所謂「フリーゾーン」の予定地内にあり、同計画発表後、アルカーイダ系の反政府勢力アル・ヌスラ戦線が撤退していた。

(8月28日HD紙1面)

●トルコ戦闘機が多国籍軍とともにISILを攻撃

トルコ外務省は、トルコ戦闘機が米軍主導の多国籍軍とともにシリア内のISILに対する攻撃を行った、と発表した。インジルリック空軍基地から飛び立った2機のトルコ空軍機はISILが陣取るアレッポ北部に向かい、28日は3ヶ所、29日は2ヶ所の攻撃を行った。(8月31日HD紙1面)

●トルコ戦闘機が多国籍軍とともにISILを3度目の攻撃

1日午前9時半頃、キリス県から約20キロメートル離れたシリア領内ISILの支配する村に対して、有志連合の空爆が行われ、トルコ空軍もこれに参加した。(9月2日付HT紙15面)

●米國務省報道官トルコの対ISIL貢献を評価

1日、米國務省報道官は、記者会見において「トルコのISILとの戦闘への貢献と200万人のシリア難民の受け入れについて、トルコは我々の期待以上の事を実施している」「トルコはISILと戦うためにできること全てをやっている」と評価。またトルコ軍のPKKへの空爆についても「トルコによるPKKに対する空爆は、トルコ軍・警察に対するPKKの攻撃が原因である。PKKが攻撃を止めることを望む。双方が暴力を控え、和平協議に戻るべきである。」と発言。(9月2日付HD紙1面)

●ISILとの戦闘でトルコ兵士1名死亡、1名拉致

1日、南東部キリス県のシリア国境において、ISIL側と戦闘が発生し、トルコ軍兵士1名が死亡、1名が行方不明となった。これは、ISIL支配地域からトルコに越境しようとした密輸業者が、トルコ軍兵士に数回追いつ返された後、密輸業者がISIL戦闘員に訴え、ISIL戦闘員がトルコ軍兵士1名を国境周辺で拉致しようとしたため、トルコ軍と戦闘が始まり、兵士1名が死亡したというもの。拉致された1名の兵士は、シリアのエル・バブに移送された模様。(9月3日付HT紙14面)

社会

●鯉とアジの漁獲量が多い見込み

海域での漁が、9月1日に解禁される一方、漁を開始するための準備が漁師達の間で行われている。ルメリフェネリの漁師は、昨年度と比較すると今年の漁獲量は増え、鯉とアジがたくさん捕れるのではないかと予想している。一方、メルシンの漁業協会代表は、解禁してすぐは漁獲量に応じて価格が下落するものの、11月以降は気候の変化にあわせて魚の消費量が上がるため、魚の価格が二倍程度まで上昇するのではないかと予測している。(8月28日付HT紙7面)

●チャナッカレ、ダーダネルス海峡を泳いで横断

8月30日、トルコの戦勝記念日にチャナッカレ・ロータリー・クラブによるダーダネルス海峡横断水泳大会が開催された。参加者は、エジェアバット市の砂浜からとチメンリック城間の5.6kmの距離を潮流に妨げられながらも泳いだ。1位の記録は45分31秒。参加者の内訳はトルコ人は

337名、うち193名が海外から参加し、4名の障がい者も参加した。(8月31日付M紙14面)

●魚を電子オークションで販売

イスタンブール・クムカプ地区にある魚市場が、ベイリックドゥズ市のギュルプナル魚市場に移転が決まった。これと同時に今後は市場で電子オークションで魚を買うことができるようになる。イスタンブール大市が管理する240,000㎡の同魚市場は、9月の漁の解禁シーズンになると、イスタンブール市民にも解放されるようになる。(8月31日付HT紙15面)

●オスマン帝国時代から現在まで引き継がれた「リモンルック」温室

イスタンブール・マスラック地区にある「リモンルック」温室では、スルタン・アブデュルハミト2世が国外から集めた、椿など約20種類の植物が鑑賞できる。温室は1876年に完成し、トルコ国内で最高樹齢の椿がピンクや赤などの花を咲かせている。(9月1日付HT紙21面)

●トルコ人が海外旅行で行きたい国1位はアメリカ、日本は7位調査会社「DORinsight」がトルコ人8022人に対して行ったアンケート結果によると、海外旅行で行きたい国の第一位としてアメリカが選ばれ、イタリア、モルディブと続き、日本は7位にランクインした。最も人気がなかった国として、パキスタン、ナイジェリア、イラクが挙げられた。(9月1日付HT紙11面)

1	アメリカ	11.67%
2	イタリア	10.42%
3	モルディブ	6.17%
4	スペイン	5.62%
5	フランス	5.05%
6	ドイツ	4.18%
7	日本	3.84%
8	ブラジル	3.09%
9	オーストラリア	2.83%
10	オランダ	2.68%

●漁解禁、漁師達が海に出た

9月1日、4月15日に開始された禁漁期間が終了し、漁が解禁となった。解禁1日目には、イスタンブール副県知事オスマン・ギュナイドン氏を始め、水産関係者、畜産関係者が参加した。参加者の1人、イスタンブール水産・肉製品輸出組合会長のサグン氏は「今年は片口イワシとカツオが豊漁である」と述べた。(9月2日付HT紙23面)

●EUの受け入れシリア難民数、トルコを大きく下回る

2015年にトルコが受け入れたシリア人難民の数は200万人に及ぶ一方で、EU28カ国が今年7月までに受け入れたシリア難民の合計は33万8035人で、トルコが受け入れた難民の数に遠く及ばない。多くのEU諸国は押し寄せる難民の受け入れに消極的で、不法入国した難民を他のEU諸国に送り出しており、最初に難民が到着した国に難民の対応を義務づけたダブリン条約が機能していない状態だ。(9月3日付H紙6面)

ドイツ	19万5723人
ハンガリー	4万235人
フランス	2万1810人
イタリア	2万20人
スイス	1万6985人
オーストリア	1万4250人
イギリス	9380人
ベルギー	6735人
ブルガリア	4355人
オランダ	4285人
スペイン	2950人
ポーランド	2590人

暫定内閣閣僚名簿(2015年8月組閣)

役職	日本語表記	備考
首相	アフメット・ダーヴトオール	留任・AKP
副首相	トゥールル・トゥルケシュ	新任・MHP
副首相	ジェヴデット・ユルマズ	新任・開発相・AKP
副首相	ヤルチュン・アクドアン	留任・AKP
副首相	ヌーマン・クルトウルムシュ	留任・AKP
法相	ケナン・イベッキ	留任・無所属・次官
家族・社会政策相	アイシェン・ギュルジャン	新任・無所属・学者
EU相	アリ・ハイダル・コンジャ	新任・HDP
科学産業技術相	フィキリ・ウシュク	留任・AKP
労働社会保障相	アフメット・エルデム	新任・無所属・次官
環境都市相	イドリス・ギュルルジェ	留任・AKP
外相	フェリドゥン・シニルリオール	新任・無所属・次官
経済相	ニハト・ゼイベキジ	留任・AKP
エネルギー・天然資源相	アリ・ルザー・アラボユン	新任・無所属・元 AKP 議員
青年スポーツ相	アキフ・チャータイ・クルチ	留任・AKP
食糧・農業・畜産相	クトベッティン・アルズ	新任・無所属・副大臣
税関・貿易相	ジェナップ・アシュチュ	新任・無所属・次官
内相	セラーム・アルトゥンオク	新任・無所属・イスタンブール警察本部長
開発相	ムスリュム・ドアン	新任・HDP
文化観光相	ヤルチュン・トプチュ	新任・無所属
財務相	メフメット・シムシエッキ	留任・AKP
国家教育相	ナービ・アヴジュ	留任・AKP
国防相	ヴェジディ・ギョヌル	留任・無所属・元 AKP 議員
森林・水相	ヴェイセル・エロール	留任・AKP
保健相	メフメット・ミュエツジンオール	留任・AKP
運輸通信相	フェリドゥン・ビルギン	留任・無所属・次官

注：本文中の略語の正式名称は以下の通りです。

略語	正式名称	略語	正式名称
AFAD	首相府緊急災害事態対応総局	ÖSB	PKKの防衛隊
AKP	公正発展党（現与党）	OIB	首相府民営化管理庁
BDDK	銀行監督庁	PKK	クルディスタン労働党
BDP	平和民主主義党（クルド政党）	PYD	シリア民主主義連合党
BOT	建設・運営・譲渡方式	RP	福祉党
CHP	共和人民党（最大野党）	RTÜK	ラジオ・テレビ高等機構
DEP	民主党	SNC	シリア国民評議会
DHKP/C	革命人民解放党/戦線	SPK	証券取引監査院
DHMI	国家航空局	SSM	防衛産業庁
DISK	先進労働組合連合	TBB	トルコ弁護士協会／トルコ銀行協会
DTK	民主主義社会評議会	TCDD	トルコ国鉄
DTP	民主社会党	TDHB	トルコ歯科医師会
DYP	正道党	TESK	トルコ商工業連合
EDAM	経済外交政策センター	THY	ターキッシュ・エアラインズ
EPDK	エネルギー市場監督庁	TİKKO	トルコ労働者・農民解放軍
HDP	人民民主党（クルド政党）	TMMOB	トルコ・エンジニア・建築会議連盟
HSYK	裁判官・検事高等委員会	TOKİ	トルコ集合住宅開発局
İDO	イスタンブール海上フェリー会社	TOMA	放水装甲車
İHH	人権・自由・人道支援団体	TPAO	トルコ石油公団
İKSV	イスタンブール文化芸術財団	TTB	トルコ医師会
İSO	イスタンブール産業会議所	TÜBİTAK	トルコ科学技術研究機構
İŞİD	イラク・レバントのイスラム国（アルカイダ系）	TÜİK	トルコ統計庁
İTO	イスタンブール商工会議所	TÜPRAS	トルコ石油精製会社
KCK	クルディスタン共同体同盟（PKK系）	TÜSİAD	トルコ産業・実業家協会
KESK	公務員労働組合連合	TÜVİD	トルコ投資家関係協会
KRG	北イラク政府	YÖK	トルコ高等教育評議会
MHP	民族主義者行動党（野党）	YSK	選挙高等委員会
MIT	国家諜報機関		

注：本文中のニュースソースの略称は以下の通りです。

トルコ語新聞		英字新聞		通信社	
Akşam	A	Economist	EC	Anadolu News Agency	AA
Cumhuriyet	C	International New York Times	INYT	Agence France Presse	AFP
Haberturk	HT	Hürriyet Daily News	HDN	Cihan News Agency	CA
Hürriyet	H	Today's Zaman	TZ	Doğan News Agency	DA
Milliyet	M			Ihlas News Agency	IA
Posta	P			Interpress	IP
Radikal	R				
Sabah	S				
Taraf	T				
Vatan	V				
Zaman	Z				

在イスタンブール日本国総領事館

電話：0212-317-4600、FAX：0212-317-4604、E-Mail：istanbulweekly@it.mofa.go.jp

WEB：http://www.istanbul.tr.emb-japan.go.jp/index_j.html

Facebook：http://www.facebook.com/Japonya.Istanbul.Baskonsoloslugu

- トルコに90日以上滞在される方は総領事館に在留届を提出願います。
- 新たに配信希望される方、あるいは今後の配信を希望されない方は、以下のメールアドレスにご連絡ください。
istanbulweekly@it.mofa.go.jp

【イスタンブール県及び近郊県内邦人被害統計】

イスタンブール邦人被害統計								
2014.1.1～2015.9.3 ※総領事館に訴出があったものを集計								
年	窃盗		詐欺		ぼったくりバー(相談)		高額絨毯購入(相談)	
	今週	通算	今週	通算	今週	通算	今週	通算
2014年		2件		4件		33件		5件
2015年	0件	4件	0件	2件	0件	12件	0件	6件

●今週は、被害の届出はありませんでした。

★当館 HP 更新のお知らせ★

- 本年9月、和太鼓グループ「鬼太鼓座」がトルコで初公演決定！
(6月22日、パルタリマヌ日本庭園にてプレス向け演奏会を開催) (6/23)
- 治安速報：イスタンブール (08/19) **NEW**
- 危険情報（トルコ）(09/01) **NEW**